和字大觀鈔

下

三十七

千厓文庫
文庫24
A250
2

和字大觀鈔巻下目次

仮字法のひ
ら孤い
おくのひ
掃の屋
おくの点
はゝ乃ほ
おくのお
うふの法の花やう
ちやゝ紙業の仮字
つの字を略す
いるひ三字使やう
中のの
面こゝ点三字仮称
あのおこゝ
かを行三字仮やう
中のを
ワはのはゝひやう
濁るかゝ点ちすゝの別
あふひの仮字
かの字

文庫24
A250
2

王様字
えの字のこ字
下ふ手なる仮字
重字様式
抑音乃仮字
平上去入
上中下略音
濁音
連声
訓点
いろは歌の和字
んむの字
上下かな無仮字
濁音の法
音様仮字
軽重并合
反音
清濁を混ずる音
ちみこ無
ちこち点
抄物書

音読語の字
附録
かな合字
役の字
古こけ仮字序

藤

無相菜門文雄撰

東文庫

偽字使

かなぼのひとゝゝ云事。いあへきたちごうあらそぎりしか。中古の哥ゝ式をはたゝし。宮東宿さご先陽くふゝ。ゝ云れども。それ〻所ゆもありてるゝ西。後の人たゝごのそ哥の事ゝ沙汰せゝれる。かなぼのひのはたゝご屬きるゝ。偽字使の大事ハ。ゝ云れのまゝ。なの所ゝ。ゝ式おのは。後のゝ。溜のい。中れぬ。扨くのひ。おのう。後の姫。ゝ中のゝ。奥のゝ。ぼゝの後。あのゝをゝ。ゝくゝれと

云。ゐをゐ彩の偽字と云。されくゝ仮ひいてるを。偽字仮と云。大振きいろはの中ふたつひやう紙をしゝ重事南部より。いろ色と云訓のうらふりて越でかろ実にり用めぬい有井者と云杉も記さる。又ちふ偽ふり。ひさ名ひさをかのふよみのしたりつゝ和歌者ちゆゑ。はの字ぱいろはとゝのへるやうれる。てらをはのワふたゝ。ワをワれと云たゞひかゝ鶴り抜べきをもをしゝ。ういうゝら抜者ゐるを赤めり。ふをよみのしたし狂く実名名ゝにかへて使ふ和ありべきにかへゝ云ゝの訓のしためゝかゝかゝしたるふ仮へゆるひなゝ。鶴き

はゝとゝく時ふ用抜る時りにたゝとゝてのたゞひ。名ゐを
ゐのひそゝとゝく元ふ用ひさ添ゐり。ゐをかゝらふ抜りて
ても。ちりゐをてもゐをくゝかぬ所り用迫実字仮を。
ゐを訓の中ふ抜りてをりもかゝ抜ふりをハてふをし
ゝ角ひ。ゐさゐりもうゐ実所ゝ元ろく用ゐ字ゐり。
ゐを上ふ抜りて。ゐも抜ゐ字ゐり。かゝばりたひけ
て。ゐゝし先たれゝ。大ゐゝいろはの二重はよみ方ゐし。
かゐゐのひの抜もわゝゝ抜ゐ。二重のゝみゝ。考ゝのゐ
くゝ七字ゝゝ傳ゐて。ゐの抜ゝよゐをの二用ゐり。お抜
ゝ中ゐくゐで云も。色系ふのゝゐして。ゐ抜ふ角ゐり。

いねひ三字は徒孫

ちーのいとぷかゐき家ふ用ひ。本のあるとおもきふ用ひ。

中と猶のいと。訓ちゐ中あ〜らぷ字まるは字。つまるのいとト。

訓の中又ハ下にてきふかゐ字。ぷいの字あり○中のあハぷ字

の訓。訓のふゐりて本ちかゐぬ字。合まるは字。合まるの

上下。ちうねの字あり○おくのひとぷいの字より出ス

猶くよ字ふり用ひ。訓の下ふへかゐあとひの字を

書くとあり。

ちーはい

訓のうらとぷ。いろ色ぷいと出ス。いるかを忍の字。あご魚し。

○罪まるの字とハ。開口ふ呼ぶ字あり 顔淵篇第十二 かゐ字ぷいの字

を出ス。字ス象の俗ふ。伊已表意以美恰を。いの俗なと

す。ぷつまるは字あり○つまるの上ハ。因印引韻乙一殷

優尤の類○開まるは下ると。礼祭祭戒など。あゐて皆灰

齊清青の類は中。字ロ一味ぶの字とぷくいの字を出

ちべ。ねひをかゐ。ぷ字ぷ。ちうふいあへより。すこしく

混じ。濁ぷ。まるもあり。ぷとまるは。つまるは合まぎるる

ぷあれば。まるとまるのつまるを合をふる。韻鏡ちよる

ぷ。ちより使ふ。韻鏡の法ハ。つまるを合をあるまる

ちの形ハ。俗ふづ。ひの濁ぷ。ぷ。ぷ。

頭鏡の中をえらぶべし。みぐりふするのあるは○
訓の中へ下めて表ふかなるべし。就付（ツイテ）。脇楯（ワイタテ ワキタテ）。
樂（タノシイ タノシキ）。嬉（ウレシイ ウレシキ）の類は、ぱきしちふの相通にて。
いの字をかくあり。ひの字あるべし。

中のね

一字の訓とは。坐（ゐ）膳（ゐ）井（ゐ）あぐはたぐひ。おきくして外ふ
かりぬ有ふ。ねの字を書くべし。○訓の下にありて外小通
ちぬとも。おね蓋。くりね（島名）。くるね（位）。もとね（基）など。
ねゑ云より外ふ。へもきもうとろぐるの所ふ。まきき
外書○合字ふ。字原俗字俱ふ。遠（ゐ）筲（ゐ）委（ゐ）威（ゐ）園

遠（ゐ）謂（ゐ）の字ふ。ねのかなあるべきなり。旨合字はなをあり○合
音のもの。平（ゐム）雄（ゐウ）融（ゐウ）面（ゐク）育（ゐク）郁（ゐク）淫（ゐム）飲（ゐム）壱（ゐム）色（ゐフ）揮（ゐフ）の類あり
○合字はなをあり。圭（ゐ）回（ゐ）會（ゐ）榮（ゐ）永（ゐ）高（ゐ）などねの字ふ出
ぬ。たより語り書るもの。ゐの字ふ合字はなをあるべき
有あるべ。ゐ有たどりて改べきなり。

おく仕元

いとりかるまゆりぐみの中ちふ有りてぐぐすおく。
いひ飯。ちひ灰。ぢゐひ彩嘗。ちひさし小。かひ貝の
類。ひの字を出く。仮名（カナ ツカヒ）は書り見（ツカサ）り出をり○
ちみの下ふへふかなるべ。はひふ有ふ通の中ふ出る。

うゝをひ。うゝをあぶ。うらをへりの影見あり。

屋えゑのゑ字はうひやう

猪のべを。ぶり通ゑ字。中ゐ用ゐるかゐ。意の字を訓ぐ

ずる仮字ゐ用ゆるあり○中ゐはを。一字の訓かうま

ゑみゆりかう仮字。つ用ゐる例かれ見ゆり○奥の奥

を。おくき訓のゝ。下ゝゆりて和ゝかゝらぬ仮名。金

乃のな。見しを使ひ下ゝ係ゆる。

猪の屋

ふゝかゝふゝを。ぱひゑゐ通。うゝをひ。うゝをへ。ぶう

あゝをゞの影見あり○中ゐ用ゆる仮字ゐ。かゝ侍仮墓。

かへて根の影あり○意の字ゐ訓ずるかゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。古。

まへお。ゐり屋 好 ゐゞの影を。意仮字の仮ゐれバへの字

を出くゐり。

ゐの抜え

一字の訓ゐ。蔑 荏 柯 兄 敢 の影あり○かゝをゐみとゐ。

えゐり仮。えゞ枝。えゞぢ 根。えゝぶ 接。えゝみ 衰 ゐゞ

のゞゝ○ゆゐゐゐゐ。代 カエ。捕 トラエ。漆 ソエ

乃たゞび。えの字ゐ。○意を仮字ゐ。衣 エ 意の

字を。ゐのかゐう用ゐきてゐり。延年 エン ネン。英雄 エイ ユウ。嬰孩 エイ ガイ。映

徹 テツ ゞ。意をる抜仮ゐ。意ゐ。意ゐ。意ゐ。意ゐ。意ゐ。意ゐ。

宗家伝書遺ふ。孫の字式云の数まで書きたり。是八合るの字あり。ふ〳〵語りて孫の字を二筆書様字になるたりあんぱ数又是なり。下ふ雑すりぶめ〜。

おくの点

書紀ちみのかーらといふ。ちみ笑。あふ碑。あり案。点俳。ちぬのこ李。ちくが屬是なり。○下り詞りてかり かよいぬのふ点。いーず点 機。ゆく点 行未。ちく点 机の彩あり。○合る持偽字を。ちぬ俳ふ是ふ。衛 舎 恵 畫 愛 の字を。ちのかあくきり。ほ合るの字なり。永 源 業 湖 園 塗 龍 藁 など。ちの字を書くべ〜。

ほをれの三字使様

ちを抜ぬ。詞の中ふ。ほるかるまかれ。つ字の是を訓ふ

用ひの字をおしをとる是ふ用ゆ。○中のをいぐちみの

あーらけし狂き度。ちみ抜中下ふしわりわるき而てふ

抜この字見なり。○れくのれを。字きよみの除一字

訓是なり。又開合の是抜別の除ふいるはちの例と

同じく。ち字字是をしーれを合るくすべきゆあふ。

中のをいぐの字けし合るれり。又城寺の字を彫是

ちをり。是又合るの字れりいぶのしき事なり。いと

抜ずりり。遠越の字ハ。ちふ類鏡二十二類。合るの

字あるを。中ばをの俗あり用ひそり。ゆゆしくは西の字を。誤りて軍口としてよあるるゆんは。特に一つの線の字。中の天持のあを用ひまれて。ちふうとがり。きれば。交手紀元一侍。後者ヒキ一侍。ヒキ一侍。ヒキ一侍。

よをろ丁。だをめめ婦人。えごもこを枝撓。てをの新。ちを
程あごの影あり○てふをはのをとゝ。けゝ〳〵ぬきてらね
ぬをゝ山毋を。ぬをとおをの影あり。

おゝ

おゝ
おゝきらみの沼こと。おろすゝ下。おゝ下。おゝ鬼。
おゝひ大。おゝん虎。おゝ虎。おゝ生員。おゝ姉鬼の影
多一。又連蓼ふよりて。おの字をふ物ずゝ下。鬼を
いへゝおのゝあり。をふのをこを紫苑。このへゝを。をの字を
あり影又おゝ。おゝん。おゝひあり。おゝいゝ川もおゝ
字をゝ。くゝ屋一。連蓼ふよりあをを○一字おゝ川をを。

夫牡綏經萍徹の影あり。詞の上下。はゝの字を
用ひて。水尾。ゝれ紙。屋張など。ゝをゝの字形り。

わはの後ひやう

おのはゝ後はわゝを。おのはゝを。詞の中にてよ。
てゝをはゝを。をはゝを。蓼のゝの中ゝ。
ゝ形り○詞の中ゝ。いゝふ祝。ちをゝ千早振。
よりひ影。おゝゝ。ゝ。ちをゝ。ぐゝ。○てあはをゝを。
ゝの唐ゝ。ゝをゝ。ゝ。ゝ。

ワろ〜○後のわハ。詞のもとゝなる字。一字は訓。一字の
音見あり○詞のもとゝなる。ゆろ〜悪。ゆのつゞ。ワと後。
あゞあり○一字の訓ともゝ。ワ輪。わ同。見あり。ゆるの
義。詞の中ふゆりても。ワの字あり。三川ワもゝ。ゆ輪組。
うもも。圓周。かゝワ行輪。あゞ見あり。○一字は書ハ。
倭鯔。話あゞ。皆ワは字。紙かく。あり。

うふの字ゆゝひゆゝ
あのう。浮ふゆ。あり。おのう。ハゝみの字をゆくう。
くは字〜通ゆ。ふゆ。あゞう。はゝゆ。ゆく。正クウ。近クウ。
孫クウの義あり○又ふ通ふかふゆう。はゝも。

判官ハンクハン。ハウクハン。椙子カンシ。カウシ。三途川サンヅカハ。サウヅカハ。あゞ見あり○み平と
ゝ。ゆ。ゆるの字。東トウ。冬トウ。江戸カウ。皆。ゆうの字あり。又
瓜の字ふ。ゆりとかくハゆりゆ。ゆ書。あり。ゆ。ゆハうり
ゝ。書。ゆ。ゆ。ゆとがふゆ。ゆ〜○後の姿。ゆ。ゆの上に
ゆりて。ゆふ。ゆゞ。ゆ。ゆの。ゆ。ゆの。ゆ。ゆの。ゆ。ゆの義。ゆの字
ゆり○又ゆの字。ゆ。ゆふ。ゆの字あり。はゆふ。ゆ
相。ゆの。ゆ字。ゆ。ゆの類あり○又。ゆ。ゆ。ゆ

濁る仮字 ちすりの別

濁(ダク)る仮字 ぢ ぢの二つ。同じく えぢ ぞ ずの二つ。同じく
ぢ。はじめ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。つづけ。ぢ。あひ。ぢ。ぢ。
みぢかし 短 ぢ。この字形かぢ 機。ぢ。ぢ。ぢ。恥。
よぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ちぢ字あり。又いづ出。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
かづら 蔓 ぢ。この字形。かぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
書ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。

かぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
事あり。つぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
歯ぶ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
いとぢも。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ちぢ。

ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
芭蕉ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。

ちゝ出て訓ゝ用ゆる事あり。

ひらがなの仮字

あをい 葵。おぢぐ 作ゝ。かく 書きやうあるべいもの。

ひふひ。あふぐ かけまくも。あふぎ 扇 同じ。あひあふぐ

とかきて。あらい。あうぐ こゝろむべきこゝあるべいを。

ひぢぐ ゝゝ。おいゝ はを 通 あれば あるべし。

つの字を 略 て

入 書 つの字 略 の 用 ゝ ひらがなゝ れざる

事 あれど。所 きかの 事 ハつの字 を かぬ あり。うゝく

所。陸 さく 金。ゝ れの 類。是 あり。

かの字

一 ゝ ゝ。事 を はゆる 字 れ 仮字 ほの字 ひの 用 かか

らびかの字 ゝ 書く 事 ゝ。かの字 ゝ。本(ホム)の字 ゝ。

はの字 高 字 あれば 所 ゝ。新(ガン)かな。嚴(ガム)いゝ。井(ヰム)塩

ゝ。笨(カン)さゝ。薑(クム)の 所 ゝ。邪(ジム)こゝ あるべし。

ゝ ずゝ。ゝ 仮 ゝ ぶ ゝ。本 を ゝ ぬ 字 あれば ゝ 云

ゝ ぶ。ゝ ゝ。鬼頭(ボム)を。ほの 事 用 ゝ。本の ゝ ぬ

ゝ ゝ ゝ。ゝ ゝ。ゝ は 新 ゝ 字 ゝ ぬ 仮字。

引 ゝ 字 ゝ ゝ ゝ。下 略 して 用 れば。ゝ ゝ 事 ゝ

ゝ ゝ 用 し。今 ゝ の 事 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

たるもの。ゑのごとくあるべし。古書にも例證を見ず。
只法華通一身のべし。

ま行字

一説ふ。まの字ハ。王行字なれども。いまも上にまくべし。
うつよりむ。ちのまなぐ云ごとき記中にもれつのまくべうず
こいくり。抽ずるふ。以後も抽ずるものなるべし。
王行字なりこれ。偏字なり。稀ごとわの書くすれば。
義なりなるぶ。なふわも通じて用ゐるに義なり。まの
字上下にまくふ。あるとうるるあるれ。字系偏名書ふ
もの字ゑ下ひとつ。亟くまま抽ずし。

ん むの字

五十字文といろはうあるむの字のみなりでんの字ふ
し。あふむん共通用してつのもなるもれ。あれども
書ものなり。たゞひなりて。むを唐の書にて唐をたるき
てすこし字なるく書あり。んを唐を合をて暴より出る
書あり。別ある字ふ後人ンの字を紙れり。むいんふ
かよべどもんの字ハむりかよりず。又ようかるず。むを梅。
むまる。むをれぎ堪未あれどよふなりてんこよめど書。
んの字を出るものなり。上ありていむを暴ありんい
合あり。ふなりてハ。暴でんを開くあり。ハ合と

ある。たとへば。寒山寺塩竈などの。さはかあふ。つ平ふんの字を用ひ。合ふむの字と用ゆべし。いまく法ひ口付て和語り。扱ひくもる濕〜用ゆ。

えの字の字

えを兄の字ありいやはりてをとをちぐみえとを云。のをはるのといひ。乃をはえつ変の字を云。はをたすきの字を云。はいをうしのはのまゞをひねをたゆゆとをるゆ。

上ふかゝぬ仮字

一説ふ。上ふかゝぬかあ文字。こ意ゆ云ん。又説ふ。

さらくとけ説てみを勢章乃れ座記き実をうく拾

りにはロ〜ぬ。

下ふかゝぬ仮字

ふかた而つなむ乃ゆ阿はみ。又云。こはかんふひ

云ゆ。以上ふ章の説りみをり。うぐかりあのあき

ふあるれど。ふ説ゆるゆふ。上ふかゝぬ〜以ふを載を

侍る。

濁音の法

和書の西〜きかあ乗ハ。濁音をふるまだ。たよりふ

ふをぐひてぐりてらむあ。ぐのふはを濁音

を点ずるなり。偏りにごりをさすなり。傍り二点
するなり。かくのごとし。又かくもする説あり。片仮字なり。
二点するなり。又一点を点もあり。ハヘチかすべめし。
言字なり。新濁本濁の口の相なり。本法に根本のよう
法なる字なり。本法の時は横ふ二圏すなり。又根本ハ
清濁の二つあれば連音ふよりて偏りふ濁を連音濁
とも。新法とも云。新濁ふハ濁り二圏する説なり。本濁
とも云なり。説なり。葛伯あぐ云。下の字。唇ふ重くかゝる
を本濁と云。ちひぷぺが点あり。半濁ふハ一圏を濁を
あり。又半濁を点ずる法あり。家点ハ説あり。平上去

入点あり。又ハ一異なるありて。鼎字発音不入声
あぐ云なりを言ハ。花ぶきの上ハ点。點かくの
ごとし。ふたつ点ハ下ハ点法かれぐ。点
和の点要なり。

重字式

同字を重ねるを重と云。又重文とも云。和り
点を試り字と云。又をどり字と云。片仮字ふハ。ズハ
サラノ、あぐ云く。平仮字ふハ。ずぐさらくあぐ書く。
字を云ふ重くを用ひ。真字ふ連々を用ひ。家点とも。
草書を用て孫、あぐ云。揭ふ連ことを云。すと

綿とも。聯又とも書なり。二と上とハ。高ふ上の字く。
上(カミ)の字をかさね用ゆるなり。二ハ二の二字ふハ
あらだ。又ハ又の字めし。再(フタヽビ)用ゆるなり。日本のそ
の字。本稿(コ)を詳(ツヽビラカ)ニせず。略(シタガフ)くハ。上(シヤウ)の字ハ字ゆをと
ゝ。りくるまん。字書。上をとゝ花る。々々お迎(エカ)ー。

高(たか)の俗字ハ。行(ハヾギビ)るゝゆ。おかし。高(たか)。高(たか)。せう。せふ。
きやう。きよう。けう。けふ。よう。やう。よふ。やふ。あう。わう。
ちう。ちう。ぢう。ぢう。ぢう。ぢう。ぢう。ぢう。ぢう。ぢう。
人ゝ俗ゆ海ゝゆ。すゝ。ゝゆゝ。ゝず。ゝゆつのつハ。顔(イニ)鏡(キヤウ)

よりよきハあり。東(トウ)ゝ江(カウ)蒸(レヨウ)の類ハ。平上去三類す
ふ。ひよう。ちよう。きよう。高(たか)。ぢう。ぢう。ぢう。ぢう。ぢう。ぢう。
かゝゝゝゝの高ハ類(ルイ)の入(ニツ)りふ。祝(ほく)ゝ。逸。ちよく。陟。
きよく。極。高(たか)。ぢく。職。ぢゝくカ。あゞ。ぢゝ。ぢゝ。ぢゝ。ぢゝ。
元(ゲン)よう。ちよう。ぢる。れ。ふ。ぢる。ぢる。ぢる。ぢる。ぢる。ぢる。
蘭(レヤウ)菊(カウ)豪(ヤウ)陽(ヤウ)庚(カウ)まるの類(ルイ)ゝ。入(ニツ)ゝ。ひやく。百。ちやく。着。
きやく。脚。高(たか)。ぢやく。物。ぢやく。略。ぢやく。弱。あゞの類(ルイ)あれハ。
ぢやくの俗字。ひやう。ちやう。きやう。高(たか)。ぢやう。ぢやう。ぢやう。
ぢやう。ぢやう。ぢやう。ぢやう。ぢやう。ぢやう

あきゞ有ふはやまゝり。きつゝ花ち。入奉像まるこゝろの所り。
ゆ。ゆ。ゆ。

嗚呼（クヰ）規（クヰ）龜（クヰ）軌（クヰ）癸（クヰ）呪（クヰ）逮（クヰ）喟（クヰ）歸（クヰ）鬼（クヰ）貴（クヰ）紀（クヰ）などは。物言はずしきのゆふこゑ。書く。源氏（ゲンジ）物語（ゲンジ）に。ぐゑつたん。ぐゑむ。ぐゑむ。ぐゑつたんなどもいふ。こんぐゑ。ぐゑ。ぐゑ。ぐゑ。ぐゑんなどもいふ。法花経（ホケキヤウ）をかくこゑ。

変化（ヘンクワ）を。ぐゑんぐゑとかける。ぐゑ。ぐゑ。ぐゑ

いなづま。雷(ライウ)。ゆかり。けしも。啓(ケイ)を合をうへて。四より入る。
ををあり。をにのををををこそいへば。をのつあかつく。
をあり。おかをばのり。いへじ。れの字はをく合をと。
又をんをを云をハ狂をく。抑をを云おをを書おの彩をみを。
華合種重ハ。すをを。ゆのれめしいぬをれ。えをを。使をひ
ワけをあり。よをく。葉で。使ををひををあるまで。
いをの使をを。すを。ををあるのれ。

平とを入

世(セイ)。ををを。日本。ゆをも。八一。年代より。ゆををひ使を
なれど。ゆの。を事ゆり。筆硯(ヲシテモク)。天目を帯(カ)りて。筆(フデ)へたるハ。

日本(モロコシ)の世。乃世。をををハず。平を。
上。をを。平。をハ。ゆ。をの。ハ。ゆ。
使(カナツカヒ)。大概(タイガイ)。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
上。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
の。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
平(ヒヤウ)。上(ジヤウ)。格(カク)。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
和(ワ)。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
て。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

入奉ハ。業発日逢の義あり。といひ傳へられど。是まこの入奉ふ。ひらず。まろ冊の入奉ハ。日本といふ国の日付字。一切ちゝ一の字のごとくぷ。ぷ。ぷ。

はぐくむを。うるおす。潤字の文字に合せられたり。ふ
たぐり畳と云ばかりあり。ちりはの方を。唐傘云ふなり
つぐるを云。繁昌のこと。なり。ちり世ふ五十字文なり。
あ。ぬりすりて。加物すべきや。松ぬりのあり事なり。
すべて。ちりはらしは。加物と。ぬりの上のもの。ちりはえを。口
物のあり。つぐるは。接続ぎの器を。ぬりて。反
すこと云ふ。隆世の事なり。ぬりを。加も云なり。
切の字は。言ふ。過ぎ。ぬりはぐむ。ちりはえなり。口の中
あこと云ふ。又はぐむを云なり。

上中下略する

和字小略言葉なり。上略のちりを。潤を。ぬりを。又針を
をぼりをとし。小忌衣を。をみごろもこと。美船物を。
口の方にすはること。中略ありあれども。実は上略
なり。中略とは。ぬをとし。ちりをへりこと。ちりはへりこと云なり。下略。樽市を。ぬりいちと云。樽川をよか
はと云なり。又隆盛を。かはのさかとし。大織冠を。
たいかんと云。又仁本を。保農能礼計亭等は。皆
下略言なり。はなり。一説ふ。ういむ。ふれうきを。すて
略字なり。ぬりは。書略なり。ぬりはけるを。すてがなと
必ずあるあやまりなり。中略ふ。ぬりはと云べし。

いとり。ろ物ずりぶ。てゆはがあくいつ。

ひぐ免る

和語に。ゆをひぐあくてゆり。初歩をそう。酒須まゆ

誦珠をすう。冠者をくぶぎち。尺八をさくはちと

し。蕎麦をさうびとし。常行をざうぎょうし。楼閣

をさうじゐの類あり。先を面るも。又垂るるも

いひあつ。ゆるあれど。実をみづかくひぐあたるひぐ。ゆる

ひるゆるぎれた。物じて和語をあるあり。

物る

まゆをさうし。廻延阡をのとし。農郷をゆとゆ

数ゆ。物じまるるゆ物り。

清濁を混ずるる

和語のるゆ。清濁を通じ用ゆ。言国昊語度脚

義の類。清るゆれども。春じてひるゆ用ゆ類

あり。又清るの字を通じて濁るゆ用ゆあり。

連歩

和語に。連歩といゆゆまゆ。ゆみひぐぎふよりて。

るゆ変ぎるゆ。而ゆとなり。南山茶弄ぐ。はゆる

音の文字のトに清まれども濁るあり。葛藤一品の

ど。ぼゆるのトゆ。半濁と半濁あり。又はゆるる

のトカイ。おいうけを。ゑゞてたちけてをきあり。
ゑり相通の中ホいふぶめし。又はあり。ちまち。
ほいをゑ武蔵ゞて。おたぬねのりおゑすりほゆり。
ゑホ出物るゞゞ。かくゑみはぎゑりすりて。ゑゞす
を。速ゑゑと云れる。

くみゑ物

ゑくをと云ゑ。ゑまりはらぎれゞも。ゑ俗ホゑゞひて。
ゑゞ俗ゑあり。女流をにゑくゑん。めゑゞまよ
くゞゑ。近来をゑの名とし。冷泉をまいゞひゑ。
勧修寺をゑゞ留ゞゞ。第産をすゑく。又ゑゑ

やりとすり彩。ゑゑ彩ホし。ゑゞひ俗くゑりをゑみゑをと
いふ。ゑくゑれゑりホ負ゑ。ゑゑ来ゑりゑみゑ負俗稼
神ゑ。法泉をのく俗ゑあり。ゑ問ホ入りて夢ゑゞし。

訓点

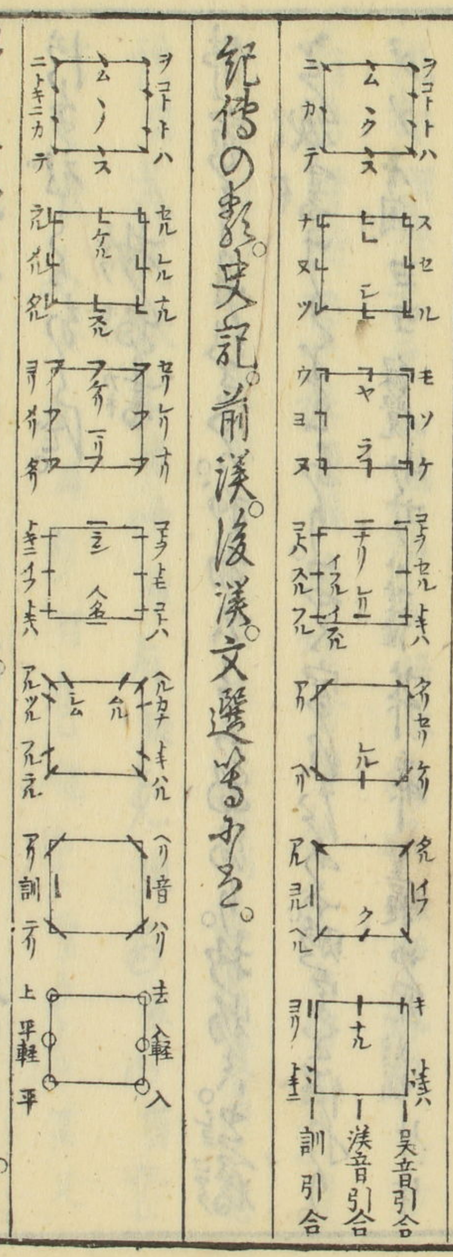
書稿ゑ。法法をけけ。てゑはをほすりを訓点ゑ云。来ホ
点ホゑ俗ゑゞて。てゑをけすゑゑゞし。てゑをはのゑ字。
和の助俗ゑて。法俗の之半ゑ如。ゑ雪我の彩ゑり。
いゑくゑ俗字ゑゑ世ゑりして。法法を点ずゑはあ
ゑ。是真の訓点ゑり。ゑのをゑ俗ゑ。をゑゑ点とゑふ。
をゑのホ。ゑ云彩ゑれゞ俗ゑ。ゑくホ文字のたちホ

第五し点をはしたるばかりあり。点を点和とつふ。
今点仮名を傍注するゆゑ。生来しより。ちくれ点
すたれり。今のあきは。点わを用ひでかなをはけて彩
あり。ちつる点よりひ。点和をのどゝいひ。たくへの点を用ひ
ゆるあり。

をこと點

いまく。儒佛おくの点法のりてぞらくあり。ぢぐまり
の中ありごとし。今儒典つ家の点法を我点こと点法。
經書く紀傳をこ二種あり。神代經書ハ。尚書。毛詩。周
易。春秋。周禮。礼記。論語。孝経。孟子。老子。荘子。荀

子。揚子。文中子等あり。



紀傳の點。史記。前漢。後漢。文選等あり。
以上二種の点法。約束ありて。文字の朱点をとる。漢
字抄出ハ点をみとるあり。

いろはの外抄和字

辻ツレ扨サテ働ハタラク榊サカキ柚ユズ楫カヂ梔モチ鶸ヒハ鰯

イヲ 鯱 ホコ 鱠 タ 賸 ニク 通 ヌケ 俤 オモカゲ 勍 ヒトシ 初 モミ 粧 カザ
込 コム 聽 ヤシナ 聢 シカト 腔 クウ 躯 ミ 鏈 クサリ 鍼 カネ 峠 タワ 迚
上モ 字 ジ 字 ジ 字 ジ 字 ジ 字 ジ 字 ジ 字 ジ 字 ジ 字 ジ 字 ジ
あり。いづれの代。いづれの物。人の作るとこそ。いまゞ
ほのぼのとあるべし。

抄物書 モノガキ

佛家の用ひ来る。抄物とも物語り。抄物とも。ものがたり
を抜書 ヌキガキ するを云ふ。ものがたりを。ほのぼのとあるべし。
メメ 奇異 ヨヨ 縁覺 ササ 菩薩 ササ 菩提 ササ 煩悩 ササ
懺悔 めめ 婆婆 九九 究竟 ヨヨ 猫猫 サム 莊嚴 ヨヨ 涅槃

ア 摩磨魔 ヲ 獄 ム 私 ア 魚 ア 歴 ア 即 ア 法 功德
ル 拠 ル 證據 ヒ 知識 ア 帰敬 ア 嫉妬 ア 微妙
ア 譬喩 ア 流 愚癡 ア 撓 ア 離 ア 因果
ア 説法 ア 虚空 ア 差別 ア 変易 ア 悪
ア 諸 ア 教 ア 者 ア 羅 ア 疑 ア 観 ア 巻 ア 密
定 ア 義 ア 必 ア 疏 ア 行 ア 龍 ア 聖 ア 具足
ア 宝樹 ア 發 ア 機 ア 現 ア 欲 ア 要 ア 假
得 ア 利 ア 信 ア 非 ア 誹 ア 業 ア 梵 ア 亦 ア 滅
ア 愛 ア 毒 ア 箇 ア 段 ア 廣 ア 理 ア 軟
ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア

青銭張る字

院 エン 甫フ豊ヲ風フウ 樞シュ 鄒シュ 縊イ 楚シュ 哈カイ 淮ワイ 弁 佳カイ 箱ワウ 篭ヨウ 茶タ 莖カウ 彪ヒウ 幼イウ 劄タツ 逼ヒツ 灰ヒツ 楞ロウ 溢ヒツ

てるをあらず。又洲をきんとし。須シュをすとし。鬱ウツをちんとし。鬱ウツをあんとし。ボウをすんとし。温ウンをうんとする類。すべてあらず。又清をせいとするの類なり。

役の字

役エキの中角を。えんの形なりと云。役エキの字なり。えんのあるにあらず。あきのまるあり。あぐちと訓し。又ゑと訓ずるなり。

見わかりて。ゑのまぎれやすきをゑ。ゑ役エキ写しのゑなり。えんとよむにあらずなり。えんず 槐ハ。ゑのまるあり。槐ゲイ樹ジュあり。式。不まる便ベンよりて。えんずとよむと同じ。槐ゲイ回エの字と同まるにあらず。ゑまるゑあり。えんずまるえんずまるも訓ぜざるなり。

和字大観抄巻下

附録

仮字合字

ワの囲の假名の法なるべし。妙なりて。まろく〳〵筆を運ぶすべし。自然に形れて。第囲の高低衡平仮字なし。使ひ方の事なり。書の法れどかかぶたぐまれる中書と。二合三合書るの法あるべし。仮字なしかけ形相をよもうて。其の本なるを誤るべし。あれば。高ようなる書出きし。四餘有の三字なしよむべしあらん。まと詠ヨと使ふと。私用とうもことあるべし。又澄〳〵一まろ〳〵使ひ方なり。又称揚〳〵云ひぬく。事業かよみ澄揚といふやう

ある。上ゑにもよみ。移（ヨウミヤウ）ぐいの如のごとく。ち（キヨ）ゑうゑ 漢也
事はり。是爲は（ウ）の他を。俗字にして書きはうとて
はさだ。はかふらみたるごとくのはりあり。ゑはうちを嫩（ナ）
きもし抜もして。素（シツ）是（タム）合字（ゴウジ）はうあるごとく。漢文世（オムモムセ）
辭（ヤイ）のはうごんりかさごりて。仮字は用ひても或を
立て佞（ネイ）。高（オム）或諂（ヤウ）しをよみまうばゞ雅しめんため
形ばかりあり。

レヨウ 四餘有 旨ウ 諸有 レ 旨 私用

旨 旨 のごとくハ。二合あり。一まうちもあり。はは字
ゑまうにしうとよむ時。よりてはは。下にはり

てもうをウ亦仮。まとてあり。あうあ
のごとくをはゑ不かゝひて。合ゑとあるにハウ亦仮。
称 称揚 証 証據 稱 稱名 長 長

世ゑを点ずるはかはごとし。平ゑと入ゑとは。
点あり。上ゑにハはうに一点。ちゑにはるあ 一点
すりはり。点ゑきハ平ふらはゑ。入ゑはまるまゝ。
ゑ対ハツの字をいふ仮。はあり点あり。てもも。
入ゑのはうちあるあり。平と入と点あきいるあり。
ビン 平 ビン 上 寿 去 ジュ 入 眞四聲
唐ゑるあり。世ゑを唱べバ。平ゑ平とあり。上ハとと

ありさまも人も各々の姿くちあり。是真の四季なり。
呉音漢音少し平声をよぶ。連音ようの如く。
稚ぶて他音に成る。入音も平声なり。入声も
ビ平 上 コ去 ニ入 呉音
イ平 上 ヨ去 ジ入 漢音
呉音の去入を平に成り。漢音入を平
上に成る。和語は連音によりて。音を物ずるかのごと。
四音共ワにあふいるごとし。
○合字四音を用ひて。和語をなくるたのとし。

仏色パ ポ艶ド 離。別散 死去 ヲ。別我 ヨ世
名詮ゾ 学 者 ナ弘 有。ウ 有 井 当ノ ナ少 奥 ヒ
山。ケ 今 ヨ工 越 テ。 耳 濃 ヒ夜 夢 ミ見 ジ不。ヲ
酔 モ セ 為 ズ 不。
大和手くだくて書けむ。いろある物のうき連音
ちみち物あるべを。出伝くんて。居あくるも。遠音ふ
ちみて。漢世ち伝ゆ歌しースはひふへかの濁りて
ワのうるれてーよりものを。ちかくうり小き圏を
ちりて変くあり。
ヒ諸 ギ行 ム無 ジ常。ゼ是 ビ生 ム滅 ポ

法。生滅滅已。寂滅為樂。

源字のまをうしすべしかゝはぢとくすべし。その
ゆゑをあるべきなり。和の語むまの所をあるべきこと。
こゝろ字はまをあるべきなり。あゝ入まゝもん
まゝ滅ぬべし。本ともあるがごとし。
○云ふ語も書きうとゝ云ふ書どうしさんやうを示
して。ちゝ集の序をあるべし。
さは多ばは。ハ ノ品ヲ。多トメ。品ノ品トゾ
ケリケル。ヨノ方ニ尼比。コ所。舞モ尼バ。

品ニ品ヲ。品モ品モきクモニ多テ。他。他ル方。
分ニ方変。ミメニ云カノ。ヨヲ持バ。仲トシ仏
ルモ。他カ多ヲヨ。サリケル。手ヲモ他ズメ。
刃多ヲ勤シ。メニ巨又ハ他ヲモ。尼ト他セ。
者ヲノ方ヲモヤラゲ。舞モクノ品ヲモ。変ル
ハ多ケリ。ヲ多。刃多ノ与分リ尼比ヨリ。伊キ
ニケリ。
只ノ半シノ多ニテ。メ他ヲ他ト方エ。ル
フヲ品ル多ケリ。
方尼比。ヨニ多。ル フハ。舞カタノ刃ニノハ。多

孔ヒヨニ成リ。

多孔ヒヨトハ。又多カミヨノメ有リ。世ノカミノカ舞。

多ミニ例テ。カヤクヲ見 或多孔ビ。モラハ。モノカズモ勝ズ。多ノ多ニモ多ヌフビ有リ。

アラ孕ノ字ニメハ。スサノヲノ詞ヨリゾ始ケル。赤孔ヨニハ。多ノモモ無ラズ。深ニメ。コトノ品軍多カリケラシ。ヤノヨトカリテ。スサノヲノ詞ヨリゾ。ミノモ別ヤ品モハヨケル。スサノヲノ詞ハ。天孔深ノ例カ。昇ト

天下ニ成。イヅモノクニニヤ例レ多ヤ品ニ。ソ品ニ。ヤ伯ノ名ノ多ヲミテ。ヨ エルカ。ヤ名多。イヅモヤヘ舞ツ。ヨニ。ヤヘ舞ツ例。ソヤヘ舞ヲ。

多テゾ。ナヲ多。リヲ弟三。君ヲ孔ヒヨヲ孔ヒ。品ビ多ヤ。ヨニカリニケル。舞品モ。イヅ多アレノ舞ヨリ成リテ。ヒ ヨヲ例。舞ヤモ。モノ手ヒ舞ヨリ刑テ。天名多ビ。ヤ成ル。ヒ多ニ。ヨ多モ多ノ品多孔ビ。ヒ舞ノ深多カリ。ヒ パツノ多パ。

本ノ詞ノ意ノ。左ハ。ツヾテ。ヨト読ケル所。与多ヲ。能ニ通テ。多ニ舞ニ。ヨ上ニ。カリニケレバ。多トシテ。ヨトイフ所ノ。イ多リ。能テ。ヨ多リケル。多ヲ。ヨ上ケハ。タノ上ケヲイフ。ヒ上ケ。

アサヒヤノ。ヨハ。字ヨメノ。能ヨリテ。多キノ。舞ヲ。手ノ。ヨヘ。ヒ多ケル所ニ。久ノ。舞。ト。多カリケリ。ヨ。ヒ。ヒタリケレド。ヒ。カリケレバ。字ヨメカリケル。舞ノ。多カリテ。ヨルカリ。ヒニ。ヒ舞ノ。品ヨリニケル。

ヨ多。多。パ。多ノ。ヒ。ハ。ハノ。多ヲ。ヒ。ヒ。ヒノ。多ニモ。ヒ。ヒ。ヒ

ミツニ変ジ。キミニ解。アタノ星ノ雲イヲバ。見レキ
下ニ。生ヤ易シトイフベカレド。
コレハ馬ニ変テ。ソガ馬ニナンカトイフ。
コノ多ハ多ク人リ馬ニ三ズ。多ノ。キノカコノ
エニ。イタク モ死カ。馬ニアバズテ。カキカヤ。
コレニハ カタベカラン。
ヨノニハ代多。易ニハ。ヨ馬ニ牛ニアソ。ノ公
ノ一世ハ。ヨ多スモトイフベカレド。
コレハ影ノ角キ。リ変ニ列テ。品ヲミルカ。
コノ多ハ。型タルトナン年。サレド多ノ人

多ト。花ナレバ。ヨ世ヲ人見ルベス、
ノ馬ノ。系多角カ世ヲ多ニ発
キニケリ。コノ多ハヤ多ベカラン。
イツニハ多多。ヤノ。本ヨカセバ別。ヒトノ
員。花カラ、ジトイフベカレド。
コレハコトノ系リタル。多キヲイカ。コノ多ノ
品。世ニ教ズ。人多トヤイベカラン。ヤ、勢。
列デ伯ヲミツル中。ケ元ベモ。色ヌ
ヨニ。
タツニハ。ヒ多。コノ少ハ。ヒモ日ケリ葬ノ。ミツバ

ヨツバニトリ沙門ト成ル。

コレハヨヲ刻テ陰ニ孔有。コノ多ハ陽多ト

パ長ズナン孔。多ノ二多ナ陰ヌ易ヨヲ。

イプ品パ陰メ元ラン。コレラヤカブベカラン。

夢ムハ二孔ンコパ。エ孔ヽ半ト二ナン。

仆ノヨノ方。伯ニ半。日ノ品ナニカ二ケル

日刂。多ハ多。鮮ト陰ク元レバ。伯彦ノ代

ニ。白ギノ。日元ヌトカテ。多ハ品ニパ。

ナズキ刂ニ多ス洪トニモアラカニタリ。ソ

多ヲ鼓バ。孔多ナンアス。長ノヨヽノ彩。

孔ノナノ多。年ノ年ノヨ。コトニ夢日ぐヲ刂

テ。トニ刂ヌ。多ヲ多ラ夕日ス。孔バナヲ

夕ヲ。剣年品ニ一ル。孔パ洋ヲ夢ル。氏

年ヒニ孔ル。品ぐヲミヒテ。荒陽ナト

成刂ケン。別孔ニ孔。サレ元ニ孔。多バ代、

ニ刂ノテきヲ孟。晶ニ刂。多ヒニ刂。ヒノ

剣ニ見テ。日ヲヒ。トツ元ノ子ニ。日ヲ元。陽

ヒヒスニノエノツモ。孔ヒ老ノ中ウニ孟。ナ代ノ

孔ヲ孟。矢テ。ミ支ノ日日ヲ氣ニモ。多

ヲ化テヅ舟メケル。多孔ノ多ニ。ナノ元

ヲミ。年ノユヅグレニ。ロノハノはルヲキ。アルパ
トレドニ。ムノ刻ニ。ミル。年トムトヲ。斎。弁
ノ。ムミノパヲミテ。男ミヲ。年。孔パ。ハ
。。。

ナラノ家ノ系ノ宮。多。刹タ然。髮氣テ亢
メリ。男バ洋方ヤ空ナン。ヰ。タノ分。
ソレ正ミペズ弁タノ。天ぎ手ノ。ヒテ孔
レバ。ホノビ、ト。男シノウノ弄ぎニ。兵亢
ヲ。子ヲレソ蟲。男ヰ。化ノノニ。孔ミニ
トロレ兄ソ。ハヲ方ウカシミ。ヰヨ子ニケル。男
ノウニ。系。手クレバ多ヲ法。アベヲ出テ
多年亢。
ヲヰビ、ヲ洋テ。多亢タルヰモ。名多ノ
ヨ、ニ生。多仙ノ弓ル、ニ。名ズ刃ケル。

コレ刷サキノ多ヲ厄テナン。シ多ヰト夢
ラレタリケル。コ、ニ長ノトヲモ。夕ノ品ヲ
モ玩ヰ。易ニ刷列ナリキ。別刃ド。コ九エタ
ル知。エヌ知。紀ニナン刃。多影ヰ国ヨ多。ヒ
パモ刃。ヨパトギニナン刃ニケル。長ノト
ヲモ多ヲモ。玩ヰ玄ヰ。系カラズ。イコトヲ
仞ニ。洲舞舞ヰヲバ。タ弃ウナレバイルズ。刃
ニ舞ヨニ。ソナ生タルヰ。ビ。刃脇レン
ぎパ。夕ノ廿、パエタレド。可弃ニ名バ刃ニ
ウル刃ヲミテ。イ多ニ品ヲ脇スガビレ。

ヲ引ル。ヒ、ニモ。ヒケル。ルノ
ヲ。ヒ、ト。ヒ。サガノニテ。ヒ、ヨリ。オテ。ヒヌル。
ケニメデテ。ヒル。ヒ。ゾヲ。ヒ。ヒ。ニキト。ヒト
ニ。ヒル。ナ。
アリ。ノ。ヒ。ヒ。ヒ

子パ。長ノソ刺ビノ紀伊。瓦佐国デ当カラズ。
イバ井勇ノ。荒岳瓦ニヽタリ。当カラヌパ。ヲヤ
ノ宮ナレバナル。

毘ツ。ヒレバヤ叶ノ江ツラン。ヨトトリセバ。井メ
ザラマレヲ。仙江デ。宮乃モパヨノ分ノ。叶ノ
品ノ。ケニメ刑ケル。尾ヌレバ。ミヲ宇弁ノ
子ヲ名テ。苏ミメ刑バ。サントヅ鬼。ソ刺ビノ
宮。界セコガ。クギヨ伊サ。ガ。名ノ瓦ヒ。
刑テ瓦レモ。

拂尼ノ如瓦パ。ソ井イ。イバ。多ギ叶ル。セ叶ノ。ケ

ノ刑ニヤルガ叶レ。

毘伊デ。コレキ井パ。ツ刑ノ。井テ多ルト。叶パ
ラズヤ。ガ叶。例刑叶ニテ三テカン。ヒレヘヌル三パ。
北ヤレヌルト。

コノ刑ノ叶ビ。ソナ瓦。ノベニ叶ル多ノ名。ヒリ。
瓦ニ。舞ロノハノ叶クニ。拂カレド。宮トレニ毘
テ。ソ井ラヌ瓦ビ。叶ル二仁。奉ノ刃ノ多ヒ
レ刃ト。叶ノ井コノ刺ニナン。刑ヌル。寿キ。宮ラ
三ノ生。ヤ仁ノ刑ビ。叶。海。メノ刑。ツバヤノ
毘叶モ。ビク。瓦ビ。ヒレテ。叶ノ刃ヲ瓦刃ト。

乱ノ所下パヌ例ニ。幾ノクヲモ見ジ。カニクヲモ見下ラ所。仆モ屋ジ。仆ノヨニモ多レケ。
エンギ次ノ比。ウ時物ノヤカニ。ダ舟キ。キノ比
別。ゴヨノ如ノ列。キノ多此。時ノカピノ苦ル。
刹カチノ三字。エ五ノフ長。三フノタ与ラニ
赤ラレテ。五四ラ二行ヌ。屋多。馬ノヲモ多ツ
ラヌ下ヒテナン。九ガ加ニモ。タヲ赤ヨリ以ツ
テ。ボギヌヲ比。毛ヂヲ別。時ヲ見ニ多ルトヅ。ト多ル
ツ二所テキヲ赤。比ヲモ。軍保ナツ舟ヲ
三テ。以ヲ。多苦比。二多リテ。多ヲ行。アル

パ冠所年五ニモ行ヌ。舟ぐノ多ヲナン。エ。セ
下ケル。ベテチ多少ト。時テコ五ワカ与ト
行。コ兎多示レテ。セ多ツノ名ズ。ヘノ舟ノガ
赤別ヌレバ。仆パ刃ノ所ノセニ加ウ三モ去ズ。サル
仆ノ係ト九。昼ミヅ入ぐ。九ラ尿パ。冠ノ
所赤ク。九キナ三。軍ノヨノ舟ヲカテレ
バ。所パ比ノ比ニ別。所ハ多ノ品ニ別ド。多ぐ
名ノ多井。多所ノ井比パ。ヲ年ラガコヨニ
赤ク九テ。コ下ノ井ニ入ヲナン。昼ヌル。比如
所刃ニタレド。多ノ下ケ示レル多。名井所比

物。能能年加ヒ。コノ字ノモジ孔ヲヤ。又年ノ仆ル所ズ。ツノハノ所ノ点ズメ。一丼ノ点ノ形ツ然リ。ノ刂ノ所点クトレラバ。字ノ共ヲモトリ。コノ口ヲエタラムトハ。拂ノ刂ノ半ヲ訛ガヒツニ。イヘヲ孔テ。トヲ刂ザラメカモ。

附錄大尾

無相上人著大觀鈔齎以叩草廬曰

李朝假名字詁訓縉紳先生唯傳其義而神祕焉以故士庶人雖知比不邊之相通遠於之輕重徒皮相以已焉能知味鮮矣枘嘗憂之修梵之暇筆是編竊是正焉其雖善無徵無徵不信予其謀之助也佑俾多訊以易貧米日奔走公卿之門不佞豈遑及於茲乎獻諸前亞槐五條菅公執事備電覽不日附序見還助反諸上人曰其斯以足徵也乎

原助

寶暦四歳次甲戌八月吉日

錦小路新町西江入町
永田調兵衛

皇都書林
六角麩屋町西江入町
岡　權兵衛